

半地下の僕の部屋には、いつでもジャムセッションができてるように楽器が置いてあるが、それらはみんなミュージシャンゆかりのものだ。今あるドラムは、「椎間板(ついかんぼん)ヘルニア」の手術をした日野元彦が全快祝いに寄贈してくれたもの。ベースは渡辺貞夫の頼みで、彼のお気に入りのベースト原田政長(この連載の第四回に登場

特注ピアノで特訓

そしてピアノは初めアップライトだったが、部屋が完成した記念の写真をニューヨークの秋吉敏子さんに送ったら、「すてきなお部屋ができてお喜びする楽しみが増えましてけど、ピアノはグランドにしてほしいですねえ」って。彼女が弾く気をおこすピアノにしなればと、ヤマハに特注させるを得なかったねえ。でも秋吉さん、ちゃんとそのいきさつを覚えていて、オーケストラでの来日が続いたあとに、ピアノトリオの仕事で日本各地を回ることに



した(が欲しがっていたのを当時五十万円もしたために、お金がでるまで立て替えて預かるうち、彼が急死して、そのままになった百数十年前のドレイ製。世界的なベースプレーヤー、ゲイリー・ヒートン在中愛用したり(名作「銀界」ほかで聴かれるのはこのベースだ)、ことしベース部門の人投票第一位の鈴木良

ノが一番喜んだと思うなあ。妙な部屋をつくらせて、ジャズを演奏してる(僕は聴くだけだけれど)というわさどは、何となく広まってしまっものらしい。七五年の暮れ近く、NHKから「この人この

わがスタジオ埋める 思い出深き楽器たち

趣味」というテレビ番組に出てほしいという依頼があり、漫画家の滝田ゆうさんのご案内役で山下洋輔トリオが熱演した。ドラマの森山威男はその年いっばいで山下トリオを去ると心に決めていたか



ドクターズスタジオで演奏する、左から渡辺貞夫、八城一夫ら=1978年5月

念すべき一夜になったわけだ。その時は、僕も滝田さんたちとお話して出演料を頂いてしまったが、「スタジオ使用料」という名目で何倍も高く払ってくれたから、NHKはあの部屋をスタジオと認

坂田に思わぬ貢献 そんなことより、アルトの

「追憶」と題されたその美しいバラードは、後に本多俊之さんのペンで見事にシンフォニー化され、東京の人見講堂で日本フィルによって発表されたのだ。

一見天衣無縫でも 一見天衣無縫のフリージャズプレーヤーの坂田が実はいかにきちんとした修練を経た音楽家であるかは、シユリアード出身の現代音楽作曲家で優れたピアニストでもある三宅榛名さんが、そのリサイタルに坂田を起用して、モーツァルトの「クラリネット五重奏曲」を演奏なさったことでも分かるが、先日お会いした三宅さん、「今一番一緒に音楽したいの、坂田さんなの。」ととてもうれしくなった

(内田 修)